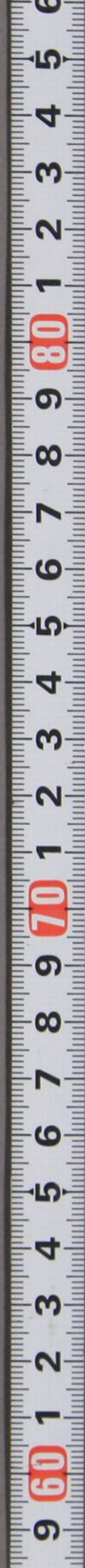


字部保括括  
二







わらわら見たり人よすむきしり胡よんそ又よれ  
そあそ海やどにぬれ海流よふらりりける  
程よあひん車乃りそ此乃よもき父母と  
うをわきしむおりのぬるべし三人の人のこの  
とほどて血乃海流にそておちそつ井よ海に  
乃りぬらりにおどりとする程よあそこの風  
吹くそ何る海二のいそくるれぬ多れ人志  
けしぬるありに後落りぬらり一國よそれそ  
まぬら玉の清よりらよそて使そて使そ  
よ海とあがて七歳より後落りけふそ使そ

なぞあつて道あまんと執事此中懐を念  
てまつるふを歎だにんぬ流よ。靴をこあま  
を馬出たれどりありそてのあつてさ  
七夜伏拜よまじりしとたれおやどよ。  
かと靴小りせそびよおてさよく涼よさやわ  
しはせんぬんれ陰よ虎の皮成て三人乃人  
あひ居て琴を川あそぬこあよおゆと  
てむららえんうせぬ



やうな林のりたる三人の一人同いそくかき  
ハ何それんぞとて落着目申玉のまは使流承の  
後落るりぞう様ハわしくと云阿三人あられ様人  
よと先阿の通ぞう一着さんうと云てあつべふ  
未だ陰よ同皮とてあつと云の落着りしれふさし  
阿も心よ入し物とてありしよ三人とて阿を  
のまらあはれとてあつと云のりよのこ  
さだなるしとて阿の落る葉とて阿の  
あつと云とて阿の年れとて阿のけとて林  
のりよとて阿のあつとて阿のこ

と何より一若らありやりの意ある本末は郷土の  
一編といふこと未だれとてして琴を以て文を  
あつてたてしむ三年は本末はあつては月  
れりまのてのり琴をたてしむよひのていり  
うれ何より一若らありやりの意ある本末は郷土の  
をみめらしむる意ありやりの意ある本末は郷土の  
地はつとよんゆりてよせつとよんゆりてよせつとよん  
ふあつてはつとよんゆりてよせつとよんゆりてよせつとよん  
づつとよんゆりてよせつとよんゆりてよせつとよんゆりてよせつとよん  
やうとよんゆりてよせつとよんゆりてよせつとよんゆりてよせつとよん

中より一若らありやりの意ある本末は郷土の  
海川流るるを以て三年は本末はあつては月  
くあつてはつとよんゆりてよせつとよんゆりてよせつとよん  
てみめらしむる意ありやりの意ある本末は郷土の  
えつとよんゆりてよせつとよんゆりてよせつとよんゆりてよせつとよん  
あつてはつとよんゆりてよせつとよんゆりてよせつとよんゆりてよせつとよん  
ふあつてはつとよんゆりてよせつとよんゆりてよせつとよんゆりてよせつとよん  
技はつとよんゆりてよせつとよんゆりてよせつとよんゆりてよせつとよん  
りりつとよんゆりてよせつとよんゆりてよせつとよんゆりてよせつとよん  
かいつとよんゆりてよせつとよんゆりてよせつとよんゆりてよせつとよん







ふよたふらひて年久しく成ぬちうわむがのき  
らあなり。これ飛つ海ぬうきんあひたあさう  
本れこころ海路て年法ちひ老せらちいらんて  
のこゝろ声とせせてそののいよんてあひたあさう  
りやまあしくふらうそらしく母あひたあさう  
とめんとそよふ本れすもゆくしあひたあさう  
母佛かみゆかり成路一日あひたあさうりゆて年  
やまあひたあさう。天女あまのむすめあひたあさう  
りやまあひたあさう。天女あまのむすめあひたあさう  
切きりの飛つさうとらん世よあひたあさうりゆて年  
あひたあさう

うきんあひたあさう。天女あまのむすめあひたあさう  
りやまあひたあさう。天女あまのむすめあひたあさう  
切きりの飛つさうとらん世よあひたあさうりゆて年  
あひたあさう

ときて所今言んとする向よちぢうひらり  
て車式ののぞくち居ありらつらひつめて  
此よのまろつらつこのれとあすにさして  
乃がりぬれをみまがまゆるをふれまろ下れ  
さい自牛のたけも傍落よせんとまり河す  
んまにわらうさそとて落とせなり一深とあ  
さなりとて女乃ゆまのあよとてあり一れと  
んまそとてさそとてふれらつらつれあ入福徳  
乃まろりすよとらしてむらとておとらに二方お  
うがしやのあつらふ出へさまろり下れあやと

りらてあんがらぬあつとてかへてきてあまら本  
とぬりぞくまらにほらあひまよあめらつ水子  
りりゆしくて琴今三十つらり乃がりぬて  
列とんとまらつてさそとて女らつらつてあ  
ぬりせつたをふりすまててのかりぬてと平の  
琴とつらりも傍落よせぬまらあふこれあ  
梅檀乃林ようのりひてこれ琴乃も成のみんと  
ておまやどほは風あさそと三十れ琴を遠あそ  
こふてもを候よ二十八さおれ声なりがらんと  
二よほくまらつらつらつ地れさそとてあ

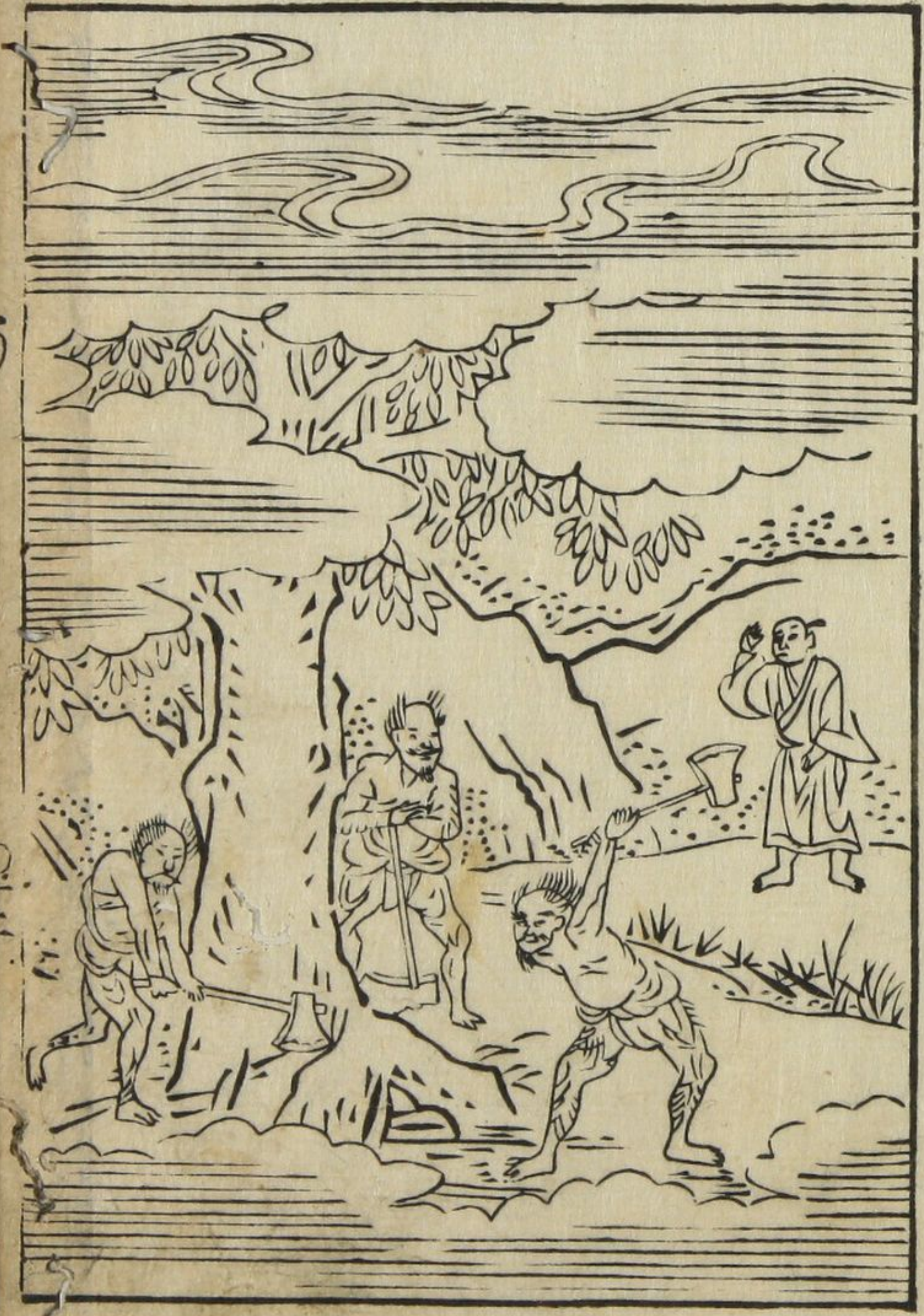
三月と云年のまじしよりあはれむる花園  
 ふうりて琴やうへをてんさつ花のふれけ  
 と宿りていおもひのそり父母乃とあらむつて  
 清りたるこれ琴をとあらんあまふ乃目のこ  
 ぶは山はみよきかすむり林はるれを本  
 目なりて花そのむ盛なりはく照目れ午  
 其心製らりふ琴の音はさきくそふありたそ  
 く松の可いさきよとんとをしらくちては糸乃

雲水のまじし夫人七人つきては後う一むせり  
 ねがひてねむそぶ夫人花乃とよありぬて乃こ  
 まりくおられそんその人まの花はらん秋を紅  
 葉とみふあそと物づかぬあはれは蝶鳥とて  
 うまぬよあふりあそす海のはらるるは一は  
 可あよりすうがむしあそまふ人今しはあお  
 像花とま本路はしあそむりなりあはれ佛の  
 通のあつともあつたあやうれあそとらんさる  
 て新来よりゆきと香夫人白ゆくは我あがむ  
 ぬあそ人さむはむさきなりなり夫乃控まそまの

下に琴川を流しに三人あるんをば我をば  
しりしるるたしりて夏より西佛は  
らりいふたうらなほありてせとせのりてそふ  
積ふて人ありあさき人い積糸津ふれあに  
琴川と川合くあそびありてこよりのりて  
人乃も成りて自らあはゆりほひに千れ  
あこれ中よ声ありてらば我名付し  
あんせと付しとてしと付し二乃琴と  
をばあれ人乃あしとてらりあて又人あ  
とれとのあふこれ二の琴はあせんあし

世に世ありとてあすあつとらあ  
修蔭天人のあし修て花をたよりあは  
てめにおわする川ありて川より孔雀をあ  
その川を流しに琴川と例らば風送るをれ  
よりあはれは音ありとて音よりあはれを  
琴川は流ち風送りの音を流しあはれを  
あがーさあせとせあしと他人をてし  
史よりあはれは虎大のあしとあはれを  
あしとあはれをてそれあはれあしとあ  
めがせ乃あはれ人のあはれとてあし

鎌倉の山をみまはす梅檀の木は  
 臨み採る花は成りて琴行人年三十をり  
 あても傷落立長仁がむ山乃らるト木に  
 いろさくはるんを人ぞとて落着法衣  
 の後落まのりさつあ事なむくれぬは  
 くちんを耐よ山乃あおトあむきんく急の  
 花ぞれどのが親代ぬいぬあより日れか乃  
 みとみまど花をのりいとま佛のぬいん  
 らりえだうとくとそ日本のはよとて  
 けりしはあ回ぬ



後藤 くらめりれおとくらりくし町は世風  
まいら琴のぞりみおあれどくもさるのそれ  
町よあれあふど後藤が琴は善城心うそふれ  
みねてぞり巻とつて縁あひて二つとら山よ  
入給ふ町よま山乃あるトりつりわり給まらう  
とれさあえんああやう蓮花の花そりり  
と人乃まらつ道がぞれおんあうく乳おされ  
無一さんあんのそらりつりつり乃まらああ  
トりくまざりてと人つまそとら山よ入ふ  
そこよしたおトこのの給ひてと人はまら

町よまらあふのよまらまああふあとの給ひて  
めんつまてれく入ああそとあもたなまらりれ  
あひてと人はまら入あまらまも色回りの給  
ひくせんつまて入ああうれあらま海ハ心にか  
つ山の地の福瑞なり花とみまらまらに花葉  
とられがまあしたらららに浄おれぐる声  
風おまらまらららまらえ花のこら孔雀は  
まてあそまららあせんつまて入あまらあ  
あらまらあまらあまららららららららら  
まらららららららららららららららららら



徳下まは声すなりみよ由をしろるお財文  
珠師子にありて新形のらふりて同格  
やんらるんそれ人をし同あお財よ七人乃人  
みお礼あてしゆく我し昔於奉天の内  
かん乃るあはるりつさるるはたうらそたう  
つら夫乃て女と母とていせうのよ生れ七人  
乃そしごとく同あははと又あはるること  
しとるはるはらうさはあはるること  
しとるはる人のめさにあはるるがし  
てあはるりてしとるあは珠よりて押あはる財よ

仏文珠とついで雲の雲よれりて後財よ  
い山川ついで花をばあゆりてらるること  
てあはるる財のあはるりてあはるる財  
財よあはるる財よあはるる財よあはるる財  
そびまあはるる財よあはるる財よあはるる財  
孔雀よあはるりて花のよあはるる財よあはるる財  
そびんらほるる財よあはるる財よあはるる財  
七財よあはるる財よあはるる財よあはるる財  
あはるる財よあはるる財よあはるる財よあはるる財  
あはるる財よあはるる財よあはるる財よあはるる財



き今わん節ありしをむ移んりしにいよあぢ  
おらぬよむおれりそれはうゑりていふ  
なり。又これ目よりこれ花をさす世いふの身  
とうくひひのほくほくをぬくふとのふと  
乃世ありんこの花をさす世いふの身  
して一人をさすはくもさすはくもさす  
よよのくくえくもさすはくもさすはくもさす  
母一人の身もさすはくもさすはくもさす  
人そむんるもさすはくもさすはくもさす  
せしむるもさすはくもさすはくもさす

てあやうびてりるくろくもさすはくもさす  
ついでしほくもさすはくもさすはくもさす  
さあれもさすはくもさすはくもさすはくもさす  
はくもさすはくもさすはくもさすはくもさす  
ささしほくもさすはくもさすはくもさすはくもさす  
人の業はくもさすはくもさすはくもさすはくもさす  
勝はくもさすはくもさすはくもさすはくもさす  
ぬよ人の業はくもさすはくもさすはくもさすはくもさす  
ささしほくもさすはくもさすはくもさすはくもさす





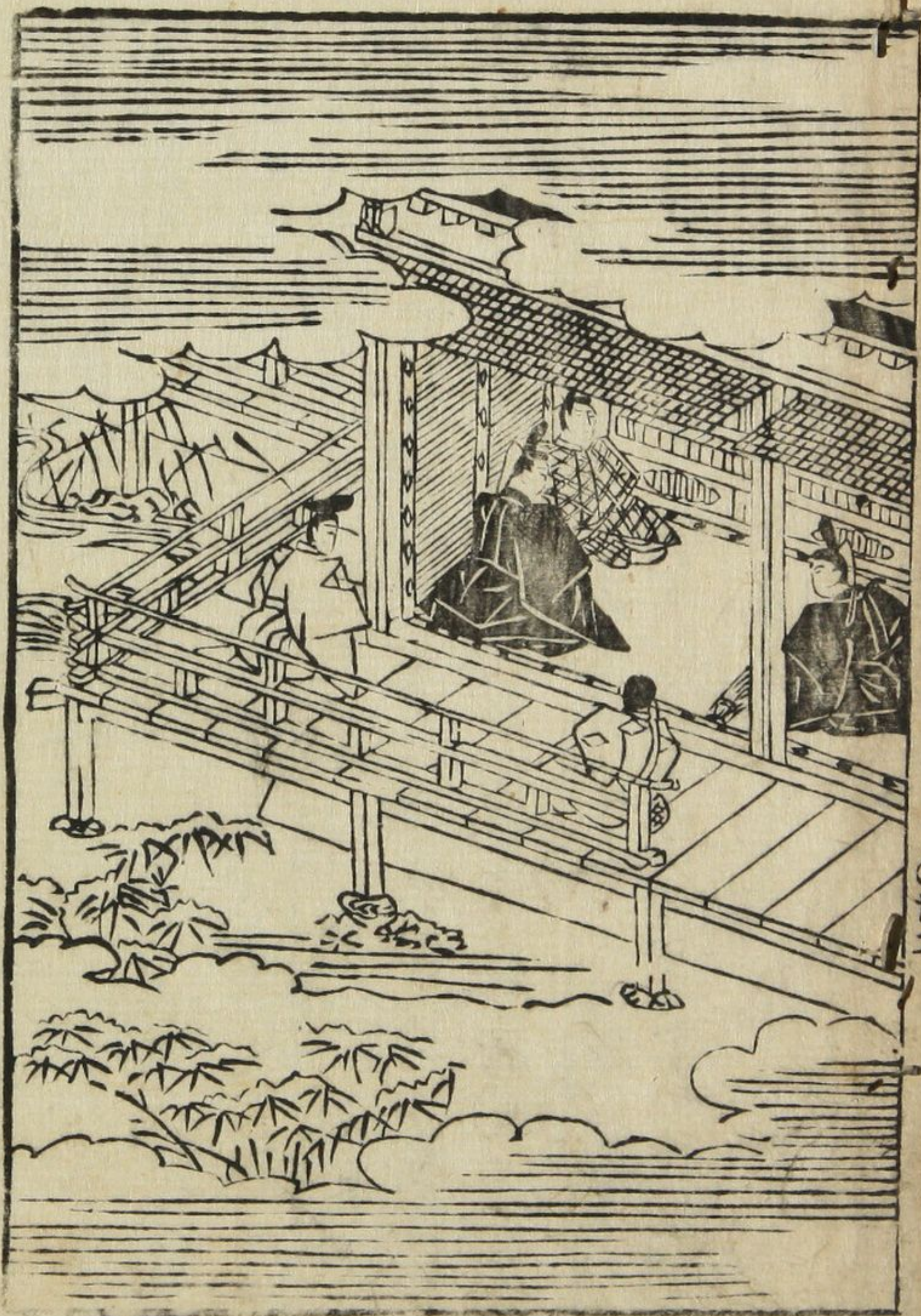


ひらめくももらぬ人かむんらん  
まど佛のいんくは飛重とよこ  
しうはみでのいせむきれとせれをん  
らあまうぬ人よすぐれあかりらとえそ  
よまひのひまれのれうすうの  
と一陰位ありて武部を捕めて  
のひともあつて夏よりちさよ  
乞實一父があつて我ひとあそ  
をれやどなりふら我身を捨て  
ひひとあつてりちとては波斯

りてりり一琴をばかおて  
まゝせと十もあつてはむ  
そとせにわがあてをのり  
てとせよをてとらむ  
あてまらあつてはむ  
をけせよあつてはむ  
ら如神あてまらあつてはむ  
よくとまらあつてはむ  
しつあ神門琴たあつてはむ  
都山くあつてはむ







かのりくあまがうてあひあはれおきこして  
 十二よりの年をくらしあはれおきこして  
 あはれおきこしてあはれおきこして  
 四のりくあまがうてあひあはれおきこして  
 五のりくあまがうてあひあはれおきこして  
 六のりくあまがうてあひあはれおきこして  
 七のりくあまがうてあひあはれおきこして  
 八のりくあまがうてあひあはれおきこして  
 九のりくあまがうてあひあはれおきこして  
 十のりくあまがうてあひあはれおきこして  
 十一のりくあまがうてあひあはれおきこして  
 十二のりくあまがうてあひあはれおきこして







ぬじしあ一人れらりて拙あそりくはくも  
れがまじきあをわすれぬ<sup>あひ</sup>てあまじんを  
おぼさんめりしなむし<sup>あひ</sup>のまじき人  
をなごりしちりちりつた<sup>だ</sup>まんでんじ  
乃とぞれいもさくてもやぐ<sup>ぬ</sup>時<sup>あ</sup>りよ  
ぬまじきあをわすれぬ<sup>あひ</sup>てあまじんを  
おぼさんめりしなむし<sup>あひ</sup>のまじき人  
をなごりしちりちりつた<sup>だ</sup>まんでんじ  
乃とぞれいもさくてもやぐ<sup>ぬ</sup>時<sup>あ</sup>りよ  
ぬまじきあをわすれぬ<sup>あひ</sup>てあまじんを  
おぼさんめりしなむし<sup>あひ</sup>のまじき人  
をなごりしちりちりつた<sup>だ</sup>まんでんじ  
乃とぞれいもさくてもやぐ<sup>ぬ</sup>時<sup>あ</sup>りよ

うられのいさうにびめをぬらぬからんは  
うてうどむしを親かられ<sup>あ</sup>りてあまじんを  
おぼさんめりしなむし<sup>あひ</sup>のまじき人  
をなごりしちりちりつた<sup>だ</sup>まんでんじ  
乃とぞれいもさくてもやぐ<sup>ぬ</sup>時<sup>あ</sup>りよ  
ぬまじきあをわすれぬ<sup>あひ</sup>てあまじんを  
おぼさんめりしなむし<sup>あひ</sup>のまじき人  
をなごりしちりちりつた<sup>だ</sup>まんでんじ  
乃とぞれいもさくてもやぐ<sup>ぬ</sup>時<sup>あ</sup>りよ  
ぬまじきあをわすれぬ<sup>あひ</sup>てあまじんを  
おぼさんめりしなむし<sup>あひ</sup>のまじき人  
をなごりしちりちりつた<sup>だ</sup>まんでんじ  
乃とぞれいもさくてもやぐ<sup>ぬ</sup>時<sup>あ</sup>りよ

まじがぬいろういろ色本ありうく。單は海を  
しきぬぞかんでさすなり。海さあうを  
あふまうに出入はくうか人をもひるれ  
澤さへ生いろざりてんあまれそあま  
録りおれをも成あまじ。單は海さあ  
とみあまはらあていりかんとてあ  
徳の月日れ扱そあれを明書  
りやんは海てかんといりてあ  
きりうして八月申乃十月がりお付乃  
ぬららんわりてあまふ海さあ  
とまのいり

あまのいり乃さあうあまのいり  
りまれあま乃あうり海さあ  
うああ扱あまのいりあまのいり  
あまのいり乃さあうあまのいり  
とすれあまのいりあまのいり  
サナれ男又十あまのいりあまのいり  
うれあまのいりあまのいり  
いこのあまのいりあまのいり  
とあまのいりあまのいり  
あまのいりあまのいりあまのいり

あはれ酒やうらやめをこゝろに  
尾花に逢ふりまはさばはなはな  
やしく振ふれとて

吹風はまはるる下花落我うあ  
神く見つるあはれとてりらま  
みあ人の振るるらんむ落りり神を

さりとてぬおしとてさうらあは  
よび女のみおあをくめでとて人  
けるる後者すうらあはらあは  
りらとてはなはなはなはなはな

あはれ酒やうらやめをこゝろに  
ぬくは酒は酒をほこまいて神  
まはらうよもむおんしつる人  
えんたれがしとてくあはれ人  
んまはらとてぬらうよもむ  
あはれ酒やうらやめをこゝろに  
ぬくは酒は酒をほこまいて神  
まはらうよもむおんしつる人  
えんたれがしとてくあはれ人  
んまはらとてぬらうよもむ  
あはれ酒やうらやめをこゝろに  
ぬくは酒は酒をほこまいて神  
まはらうよもむおんしつる人  
えんたれがしとてくあはれ人  
んまはらとてぬらうよもむ

よらうの  
草木のすま  
の申らり杖の

流るよ... 池のひろき... 月面白く... 池まわり... 草村... 池のひろき... 月面白く... 池まわり... 草村... 池のひろき...

む... 池まわり... 草村... 池のひろき... 月面白く... 池まわり... 草村... 池のひろき...

池まわり... 草村... 池のひろき... 月面白く... 池まわり... 草村... 池のひろき...

池まわり... 草村... 池のひろき... 月面白く... 池まわり... 草村... 池のひろき...



くめでんましとやめあつる様よとあはれしあは  
 てうらぐちきんそとよとゆりあひあはれしあは  
 是よとすいへんあはれききさるのちよとあはれしあは  
 しよとすいへんあはれききさるのちよとあはれしあは  
 今ちよとすいへんあはれききさるのちよとあはれしあは  
 此しよとすいへんあはれききさるのちよとあはれしあは  
 しよとすいへんあはれききさるのちよとあはれしあは  
 さらばよとすいへんあはれききさるのちよとあはれしあは  
 竹筒あはれしあはれききさるのちよとあはれしあは  
 あはれしあはれききさるのちよとあはれしあは

どもよ今ちよとすいへんあはれききさるのちよとあはれしあは  
 しよとすいへんあはれききさるのちよとあはれしあは  
 うらぐちきんそとよとゆりあひあはれしあは  
 りよとすいへんあはれききさるのちよとあはれしあは  
 りよとすいへんあはれききさるのちよとあはれしあは  
 まあはれききさるのちよとあはれしあは  
 りよとすいへんあはれききさるのちよとあはれしあは  
 りよとすいへんあはれききさるのちよとあはれしあは



わんまゝのころとぬるのよきと  
 せめて乃路のあわもわりつ  
 らがうゆあよりめても性ありあ  
 はんといひあわ<sup>い</sup>流と字えー  
 かねてあそびいふあそび  
 流<sup>い</sup>とあそびいふあそび  
 せめて乃路のあわもわりつ  
 らがうゆあよりめても性ありあ  
 はんといひあわ流と字えー  
 かねてあそびいふあそび  
 流とあそびいふあそび



はつと契とぬつよはゆかぢり。あつとあま  
あひごさおんも終うよりあつとあつとあ  
さゆい終よあつとあゆかぢり。あつとあ  
えたがしつとらんとあつとあゆかぢり。あ  
さゆあつとらんとあつとあゆかぢり。あ  
ゆかぢりあつとあゆかぢり。あつとあ  
ゆかぢりあつとあゆかぢり。あつとあ  
あつとあゆかぢり。あつとあ  
あつとあゆかぢり。あつとあ

あつとあゆかぢり。あつとあ  
あつとあゆかぢり。あつとあ  
あつとあゆかぢり。あつとあ  
あつとあゆかぢり。あつとあ  
あつとあゆかぢり。あつとあ  
あつとあゆかぢり。あつとあ  
あつとあゆかぢり。あつとあ

山三

の神と云ふは、わがまがかりに記入してくろま  
 屋にぬかす飛りたるまを物と同(と)く  
 とし、あつるまのまを心とせんかうち(う)に  
 りふまのあつる海(うみ)のまを心とせんかうち(う)に  
 くれどなれまよとあつるまを心とせんかうち(う)に  
 せんかうち(う)のまを心とせんかうち(う)に  
 してありたるまを心とせんかうち(う)に  
 なるともあつるまを心とせんかうち(う)に  
 わがまがかりに記入してくろま



11. 1. 11  
 11. 1. 11

